

令和4年度富山県におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る評価報告

1 狩猟者の現状や課題等

- ・イノシシやニホンジカは事業の実施地域で捕獲を行っているが、ほとんどが埋設処分されている。イノシシによる農作物被害は減少傾向にあるものの鳥獣全体の被害の7割を占めていることや、ニホンジカの捕獲数が増加傾向であることから、今後も捕獲により個体数を減少させていく必要がある。
- ・近年、イノシシ等の肉をジビエとして有効活用する社会的関心も高まっていることから、必要な知識と技能を狩猟者に修得させる必要がある。
- ・県内のほぼ全域が豚熱感染確認区域となっている中、豚熱陰性個体についてはジビエ利用が可能となっているが、豚熱の早期の収束が望まれる。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

- ・狩猟免許取得初心者を対象に、捕獲したイノシシ及びニホンジカを食用として利用するために必要な衛生管理を含めた知識及び技能を学ぶ講習会を「富山県獣肉の衛生管理及び品質確保に関するガイドライン」に基づいた内容で実施した。
- ・講習会の開催回数 19回
- ・参加者数 延べ45人

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等

- (1) 評価：達成
 - ・ジビエ利用拡大を考慮した狩猟者育成の講習会を実施することができた。
- (2) 令和4年度の成果
 - ・令和4年度の捕獲数イノシシ224頭、ニホンジカ30頭のうち、イノシシ45頭、ニホンジカ4頭が自家利用された。
- (3) 課題
 - ・講習会への参加人数を増加させるため、開催方法等について検討していく必要がある。
 - ・豚熱に配慮した自家消費のみならず、豚熱陰性のイノシシ肉の出荷に取り組む処理施設事業者と狩猟者の間のやり取りをスムーズにし、よりジビエ利用を推進する必要がある。
 - ・「とやまジビエ」のブランディングを進め、消費者にPRすることで、需要拡大を図る必要がある。
- (4) 対策
 - ・今後も積極的に講習を受講させ、知識と技能の向上に努める。

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。
また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。